

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 5 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K03822

研究課題名(和文) 福祉レジーム、地域の産業構造と移民の社会階層に関する比較研究

研究課題名(英文) The comparative study of welfare regimes, local industrial structures and social stratification and inequality among immigrants

研究代表者

竹ノ下 弘久 (Takenoshita, Hirohisa)

慶應義塾大学・法学部(三田)・教授

研究者番号：10402231

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本に特有な福祉レジームと日本国内の地域によって異なる産業構造が、移民の労働市場での地位にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることを旨とした。福祉レジームの効果については、アメリカ、スウェーデン、日本の3カ国比較を行うことで、移民女性の労働市場参加が、その国の福祉レジーム(日本の場合は男性稼ぎ手を重視する家族主義レジーム)に大きく左右されることが明らかになった。日本国内の地域の産業構造については、移民の失業に及ぼす影響を検討したところ、輸出指向の強い自動車、電子部品の製造業の集積地域であるほど、移民の失業率が高いことが分かった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to explore the ways in which labor market outcomes among immigrants depend on welfare regimes and industrial structures of local labor markets. To identify the linkage between welfare regimes and socioeconomic outcomes among immigrants, we compare labor force participation of immigrant women across the three countries with different institutional settings, such as Japan, Sweden and the United States. What we found in this study is that the labor force participation of immigrant women is reflected by the familialistic welfare regime which is characterized as the male breadwinner model. Turning to the results concerning the effect of industrial structures of local labor markets, it is shown that immigrants' unemployment increased in the place with a larger concentration of manufacturing industries with higher export orientation.

研究分野：社会学 社会階層論 比較社会学 計量社会学

キーワード：福祉レジーム 地域労働市場 産業構造 移民 失業 労働市場参加 制度編成 国際比較

1. 研究開始当初の背景

日本では1980年代以降、多くの海外からの移民労働者の受け入れを経験している。そして、少子高齢化に伴う人口減少のため、移民労働者の受け入れについて活発な議論が展開されている。こうしたなか、日本の社会学も、外国人や移民を対象とし、かれらの地域社会における受け入れの文脈、日本における労働市場の構造が、かれらの編入様式にどのような影響を及ぼすか、明らかにしてきた。とはいえ、先行研究の多くは、小規模なフィールドワークにもとづき、特定の移民集団(日系ブラジル人、結婚移民、技能実習生、アジアからの高技能外国人など)を対象とするあまり、比較の視点に乏しい。

他方で欧米の移民研究では、本研究が設定する課題にアプローチする試みがなされてきた。アメリカの移民研究は、社会階層論や経済社会学の影響が強く、受け入れ社会の産業構造という労働需要側の要因を分析にとりこむ研究が多くみられる。ヨーロッパの移民研究では、移民の編入様式について多くの比較研究が行われ、移民の出入国管理政策、労働市場構造、福祉レジーム、統合政策など、受け入れ社会におけるマクロな制度的状況が、移民の編入様式と地位達成にどう影響するかを明らかにしてきた。

2. 研究の目的

以上のこれまでの研究状況をかながみ、本研究は、日本に居住する国際移民が、地域の受け入れの文脈として重要な、地域の労働市場や産業構造の動向が、かれらの編入様式や地位達成にどのような影響を及ぼしているのか、移民集団ごとに異なる国際移動の文脈や受け入れの文脈が、地域の産業構造とどのような関係を有するのか、両者の相互規定的な関係が、移民の地位達成にいかなる影響を及ぼしているかを明らかにする。さらに、国際移動の文脈が異なるヨーロッパ、特にスウェーデンの移民や古典的な移民国家として多くの移民受け入れを経験してきたアメリカと比較することで、国家間で異なるマクロな制度編成としての雇用・福祉レジームが、移民の地位達成にどのような影響を及ぼすかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、以上の課題を明らかにするために、量的データを用いた計量分析を主に行った。分析結果の考察と解釈をサポートするために、小規模な質的調査も一部で行った。分析には、2010年の国勢調査のミクロ・データを総務省統計局に申請し、分析のために利用した。分析を行うために、欧米と日本における移民と階層や階層研究一般に関する先行研究の検討を行い、分析モデルと仮説の構築を行った。地域の産業構造と移民の社会階層

を検討するために、多水準モデルを分析に活用し、市町村を単位に地域レベルの産業構造を変数化し、個人属性を考慮しても、地域レベルの産業構造が移民の失業にどのような影響を及ぼしているのか、検討を行った。福祉レジームの影響を検討するために、スウェーデンとアメリカとの比較研究を行った。国際比較研究を遂行するために、Guilherme Da Silva Kenji Chihaya (Umea University, Sweden) と Tristan Ivory (University of Missouri, the United States) と共同で研究を行った。スウェーデンについては、政府の保有する Registration Records を分析に活用し、アメリカについては、Public Use Micro data Samples という国勢調査の個票データを用いた分析を行った。

4. 研究成果

これら2つの課題を中心に分析を行い、次の成果が得られた。地域の受け入れの文脈がどのように移民の失業を左右するのかを明らかにするための計量分析を行った。当初は、地域の産業構造を中心に検討を行う予定であったが、先行研究では、地域の産業構造に加えて、移民コミュニティが重要な地域の受け入れの文脈を構成し、移民の社会経済的地位に大きな影響を及ぼしていることをかんがみ、移民コミュニティについても地域レベルで指標化し、分析を行った。分析の結果、地域の産業構造は、移民の失業を大きく左右していることが分かり、仮説を支持する結果が得られた。2010年の国勢調査データを分析には用いたが、ちょうどこの時期は、アメリカ発の金融危機によって、日本でも輸出志向の強い製造業を中心に、失業率が高く、派遣労働者や有期雇用の労働者に対する解雇、雇い止めなどが大きな社会問題となっていた。そこで、産業構造を輸出志向の強い製造業(自動車・電子機器の産業など)と国内消費向けの製造業(食料品、衣料など)に区分し、それらの製造業の地域における集積が、移民の失業にどう影響しているかを見てみたところ、輸出志向の強い製造業の集積地域では、移民の失業率が高く、国内向けの製造業ではかえって、移民の失業率が低い傾向がみられた。また、非熟練のサービス産業の集積する地域ほど、移民の失業率は高いことが分かり、欧米の研究結果と一致する傾向も見られた。

移民コミュニティの影響については、主として2つの指標から検討した。ひとつは、地域別、各国別の移民の人口規模であり、いまひとつは、地域別、各国別の移民の自営業比率である。移民人口が特定の地域に集積していることと、移民の自営業者が特定の地域に集積していることが、移民の失業にどのような影響を及ぼしているのかを検討した。分析の結果、第1に、移民人口が特定地域に集積していることは、かえって移民の失業率を高めていることが分かった。すなわち、移民人口が特定の地域に集中することは、移民コミ

ユニティ仮説が示唆するように、相互の移民の助け合いから失業率を低下させるのではなく、かえって、人口の多さが、移民の地域社会での可視性を高め、差別の標的となっていることを示すものであった。他方で、地域における移民の自営業者の集積は、移民の失業率を低める効果が見られた。すなわち、移民コミュニティにおいて地域社会に移民企業家が集積することで、それが移民にとっての就労機会を提供し、経済危機のもとでも移民の失業率を抑制したと考えられる。また、移民人口や移民企業家の地域における集積の効果は、移民集団によって異なる傾向もみられた。

次に、福祉レジームの効果を検討するため、移民女性の労働市場参加のあり方が、日本、スウェーデン、アメリカといった異なる福祉レジームの諸国でどのような差異が見られるか検討を行った。とりわけ、ネイティブの男性との婚姻の効果を比較したところ、日本では、移民女性が日本人男性と結婚した場合、日本人男性と結婚した日本人女性以上に、労働市場参加率が著しく低下することが分かった。こうした傾向は、アメリカやスウェーデンでは確認できなかった。かえってスウェーデンの場合、スウェーデン人男性と結婚した移民女性は、労働市場参加率が高まることが分かった。日本の福祉レジームは、男性稼ぎ主モデルを基盤とする家族主義によって大きく特徴づけられるが、移民女性の労働市場参加についてもそうした福祉レジームの特徴を大きく反映するものであった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

竹ノ下弘久 2018「管理職への到達をめぐる不平等——世代間移動と職業キャリアの視点から」『日本労働研究雑誌』690号(1月号): 18-30. 査読有

Takenoshita, Hirohisa. 2017. “The Recent Economic Crisis and Unemployment of Immigrants in Japan.” *Journal of International Migration and Integration* 18: 563-585. 査読有

竹ノ下弘久 2016「マクロな制度編成と移民の社会経済的統合」『三田社会学』21: 42-56. 査読無

Takenoshita, Hirohisa. 2015 “Social Capital and Mental Health among Brazilian Immigrants in Japan.” *International Journal of Japanese Sociology* 24: 48-64. 査読有

[学会発表](計 12 件)

Takenoshita, Hirohisa. 2017. “Institutional arrangements and inequality among immigrants in Japan.” Paper prepared for the symposium on the Impact of the Humanities and Social Sciences: Discussing Germany and Japan, organized by German Science Foundation, 招待講演

Takenoshita, Hirohisa. 2017. “Gender earnings inequality in Asian countries.” Paper prepared for the conference on labor market uncertainty for youth and young adults.

Takenoshita, Hirohisa and Kota Tagami. 2017 “Searching for home outside countries of origin: Immigration and housing in Japan.” Paper prepared for the conference of East Asian Sociologist Network.

Ivory, Tristan, Guilherme Kenji Da Silva Chihaya, and Hirohisa Takenoshita. 2017. “Cross-national differences in foreign-born female labor force participation.” Paper prepared for the annual meeting of American Sociological Association.

Takenoshita, Hirohisa. 2017. “Local labor market contexts and unemployment among immigrants in Japan.” Paper prepared for the International Conference on Social Development and Structural Change. 招待講演

Takenoshita, Hirohisa. 2017. “Gender earnings inequality in Asian countries.” Paper prepared for the inequality symposium of Korea Inequality Research Network. 招待講演

Takenoshita, Hirohisa and Kota Tagami. 2017 “Searching for home outside countries of origin: Immigration and housing in Japan.” Paper prepared for the meeting of Researching Home and Migration: International Workshop.

Takenoshita, Hirohisa. 2016. “Local Labor market contexts and employment outcomes among immigrants in Japan.” Paper presented at the meeting of Research Committee 28 on social stratification and inequality, International Sociological Association.

Takenoshita, Hirohisa. 2016. “The Transformation of Job Structures in Japan during the 1990s: Testing the Polarization Thesis.” Paper presented at the meeting of Research Committee 28 on social stratification and inequality, International Sociological Association.

Takenoshita, Hirohisa. 2015. “Job Polarization in Japan? The Patterns of Job Expansion from 1992 to 2002.” 招待講演 Paper presented at the

workshop in the department of geography and economic history of Umea University.

Takenoshita, Hirohisa. 2015. "Job Polarization in Japan? The Patterns of Job Expansion from 1992 to 2002." 第60回数理社会学会大会報告.

竹ノ下弘久 2015「福祉レジームと移民の社会経済的統合——マクロな制度編成に注目して」三田社会学会シンポジウム『移民の市民的統合の内実——政治社会学的地域研究の視座から』（招待講演）.

〔図書〕(計 5 件)

Takenoshita, Hirohisa. 2016 "Immigration Challenges in Japan: How has Japanese Society Coped with Immigration?" In Healy Ernest, Dharmalingam Arunachalam and Tetsuo Mizukami (eds). *Creating Social Cohesion in an Interdependent World: Experiences of Australia and Japan*. London: Palgrave Macmillan: 95-112.

Takenoshita, Hirohisa. 2015 "Who Succeeds in Self-Employment? The Role of Family, Gender, and Labor Market Structures." In Hiroshi Tarohmaru (ed). *Labor Markets, Gender and Social Stratification in East Asia*. Leiden: Brill: 177-205.

竹ノ下弘久 2015「階層の社会学」筒井淳也ほか編『計量社会学入門 社会データをよむ』勁草書房: 90-102.

Takenoshita, Hirohisa. 2015. "Labor Market Structure, Welfare Policy, and Integration: Brazilian Immigrants during the Economic Downturn." In Yoshitaka Ishikawa (ed). *International Migrants in Japan: Contributions in an Era of Population Decline*. Melbourne: Trans Pacific Press: 234-255.

竹ノ下弘久 2015「階層構造のなかの移民、マイノリティ」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣: 63-78.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://fs1.law.keio.ac.jp/~hirotake/>

6. 研究組織

(1)研究代表者
竹ノ下 弘久 (TAKENOSHITA, Hirohisa)
慶應義塾大学・法学部・教授
研究者番号：10402231

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：

(4)研究協力者

田上 皓大 (TAGAMI, Kota)
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程
長南 さや佳 (OSANAMI, Sayaka)
Institute for Migration, Diversity and Welfare, Malmo University